

# 阿久津先生が遺されたことば Some Words Akutsu-sensei Left for Us

佐々木 輝美 SASAKI, Teruyoshi

● 国際基督教大学  
International Christian University

阿久津先生はご自分のことをあまり自慢される方ではありませんでしたが、世界の著名人に関する経歴情報を集録している *Who's Who in the World* に先生の名前が掲載された際に、「私の名前のすぐそばに Akihito 昭和天皇の名前も載っているんですよ」と、一度だけ誇らしげにおっしゃったのを覚えています。さまざまな想いが巡る中、あのような笑顔を拝見しながら、もう一度お話がしたかったと思います。

2006年3月12日午前、ICU名誉教授の阿久津先生には73才でご逝去されましたが、それ以来幾度となく、仕事のことや生き方のことについて、「阿久津先生だったらどうされるのだろう」と思うことがありました。当然ながら、天から阿久津先生の声が聞こえてくるはずはありませんが、不思議なことに、かつての阿久津先生との会話の中から、幾つかのキーワードが浮かんできます。たとえば、innovative, creative, unique, コミュニケーション, 愛・・・などのことばです。

## ● Innovative, Creative, Unique

学生を愛した阿久津先生は、つねに説得的で分かりやすいメッセージを準備され、学生の心をひきつけていました。とりわけ、ICUの頭文字を、独自に解釈されたメッセージは忘れることができません。

「ICUのIはinnovativeのIであり、ICU生は革新的でなければなりません」、「ICUのCはcreativeのCであり、ICU生は創造的でなければなりません」、「そして、ICUのUはuniqueのUであり、

ICU生はユニークでなければなりません。」

学生のみならず、ICUに関わる全ての人へのメッセージかもしれません。

## ● コミュニケーション

現代社会において、「コミュニケーション」が益々重要なキーワードになりつつありますが、阿久津先生には先見の明があり、1970年代の早い時代にコミュニケーション学をアメリカのミシガン州立大学で研究されました。著名なB. S. グリーンバーグ、E. M. ロジャーズ、D. K. バーローとも親交があり、阿久津先生の年代で、コミュニケーション学の博士号を取得した日本人研究者は数える程しかいないと思います。

そのようなコミュニケーションのエキスパートである阿久津先生が、あるとき「コミュニケーションとは何か分かりますか?」と訊かれたことがありました。大学院生たちがそれぞれの限られた知識を基にして、分かったような説明をすると、「そんなに格好をつけているようでは、まだまだですね」「何がなんだか分からない、それがコミュニケーションです!」とたしなめられたことがありました。

たしかに、コミュニケーションに関わる要因は無限であり、分かったような顔をしてコミュニケーションに望むと失敗することが多々あります。謙虚であれというメッセージなのかもしれません。

## ● 愛・・・

振り返ってみると、阿久津先生の晩年のお話の中には「愛」ということばがよくでてきました。

「コミュニケーションは愛である」というような説明もあったように記憶しています。次の聖句を引用しながら話されたこともありました。

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。・・・すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。・・・信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である（コリントの信徒への手紙1, 13章）。

まだ他にも、私が気づいていない、先生の遺されたキーワードが沢山あるに違いありません。それらを求めつつ、今は、innovative, creative, unique, コミュニケーション、そして愛ということばについての理解を深め、これから出会う学生に伝えて行きたいと思います。